

平地林の有効活用を問う

竹嶋 久雄 議員 (自ク)

答 弁 教育の場として生かしたい



質問 都市緑地は、人の心をリフレッシュさせ景観に潤いを与え、自然環境やその利用を楽しむことなどの機能をもっている。町では、緑の財産として保存樹林の推進を図り、その成果も高く評価されているが、平地林の緑と地形をさらに生かし、住民が利用できるような環境整備が必要と思う。そこで第三小学校西側一帯の平地林をパークゴルフコースや学校林、さらには緊急避難場所として整備保存すべきと思うが、町長の所見を伺う。

町長 パークゴルフコースについては、林地等の造成が必要でありこの場所での設置は難しい。学校林としては、総合的学習の場として、利活用を前向きに検討する時期にあると考えている。また、広域避難場所については、すでに第三小が指定されているので、考えていない。



第三小から望む西側の平地林

介護保険制度改正の取り組みについて

福島 千恵子 議員 (公)

答 弁 4月に地域包括支援センターを設置



質問 介護保険法の改正に伴い、本年4月1日施行に向けて準備が進められているが、介護施策等について所見を伺う。

問① 平成20年までに実施しなければならぬ介護予防サービスの計画と取り組みについて。

町長 4月より地域包括支援センターを高齢者福祉課に設置し、介護予防(栄養改善、筋力、口腔機能の向上)を推進する。

問② 認知症高齢者に不可欠なグループホームの設置と、成年後見制度の相談窓口の設置について。

町長 グループホームは二区を見て、後見制度は窓口を設置。

問③ モニタリングシステム



地域包括支援センターの窓口 (高齢者福祉課内)

ムの導入による介護給付費適正化対策事業と取り組みなど、介護基盤の構築について。

町長 町では、モニタリングは効果的と考えていないので、ケアプラン作成技術向上研修の実施などにより適正化に努めたい。

こんな質問もありました
住民票自動交付の導入を、町長 費用対効果から見て困難。
武蔵野地域に児童館を、町長 町全体のバランスを考慮して調査、研究。

町税を投入し少人数授業を

尾作 武夫 議員 (自)

答 弁 学習環境の整備に努めたい



質問 少人数で学習することで、教科の習得が深まり、分かる喜びを経験することで、学習意欲も高まる。学習の満足感・達成感が得られることで、子どもの相互や教師との人間関係も安定する。充実した学習は、心のゆとりを生み、生活面に良好な影響をもたらす。そこで、少人数授業、複数の教師による授業など教育環境の整備が何よりも急がれる。自分達の地域の学校を自分達が払った税金でどう変えていくかである。町長、教育長の所見を伺う。

町長 都では、少人数学習集団による授業を推進するために、加配教員の配置を行っている。町でも複数配



休み時間の校庭 (第二小)

置の学校を含め、すべての小中学校に配置されている。さらに、必要に応じてサポートティーチャーを学校に派遣し、配慮を要する児童

への支援も充実させている。今後、町としても教育委員会との意向を把握しながら子供たちの学力向上、環境整備に努める所存である。

「米軍再編」の対応について

大坪 国広 議員 (共)

答 弁 政治生命を賭けて容認を表明した



質問 「朝鮮戦争以来の大規模な再編」といわれる中間報告に対し、いま全国各地で基地強化反対のたたかいが、政治的立場の違いをこえた、自治体ぐるみのたたかいとして発展しつつある。相模原市長は「戦車にひかれても反対だ」、座間市長は「ミサイルを撃ち込まれても反対だ」と言明した。

このような状況で「容認する」と表明したことは、多くの住民に衝撃を与えている。改めて、今回の対応についての所見を伺う。

町長 在日米軍再編の中間報告に対する全国の基地を抱える自治体の状況は承知している。しかし、府中基地にある航空総司令部と関連部隊が横田基地に移駐しても常駐機の配備はなく、連絡機の飛行が1日1便程度との説明を受けている。また、航空自衛隊との共同使用を容認することで軍民共用化の動きを封じられると考えた。

日本の安全があつて瑞穂の安全があることなどを考え、政治生命を賭けて容認を表明した。



横田基地を飛び立つ米軍機